

ORIENTEERING JAPAN

'95 / 3

O JAPAN

Navigation across Country

1995年 [平成7年] 3月10日発行

(毎月1回10日発行)

第12巻第3号通巻第140号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可

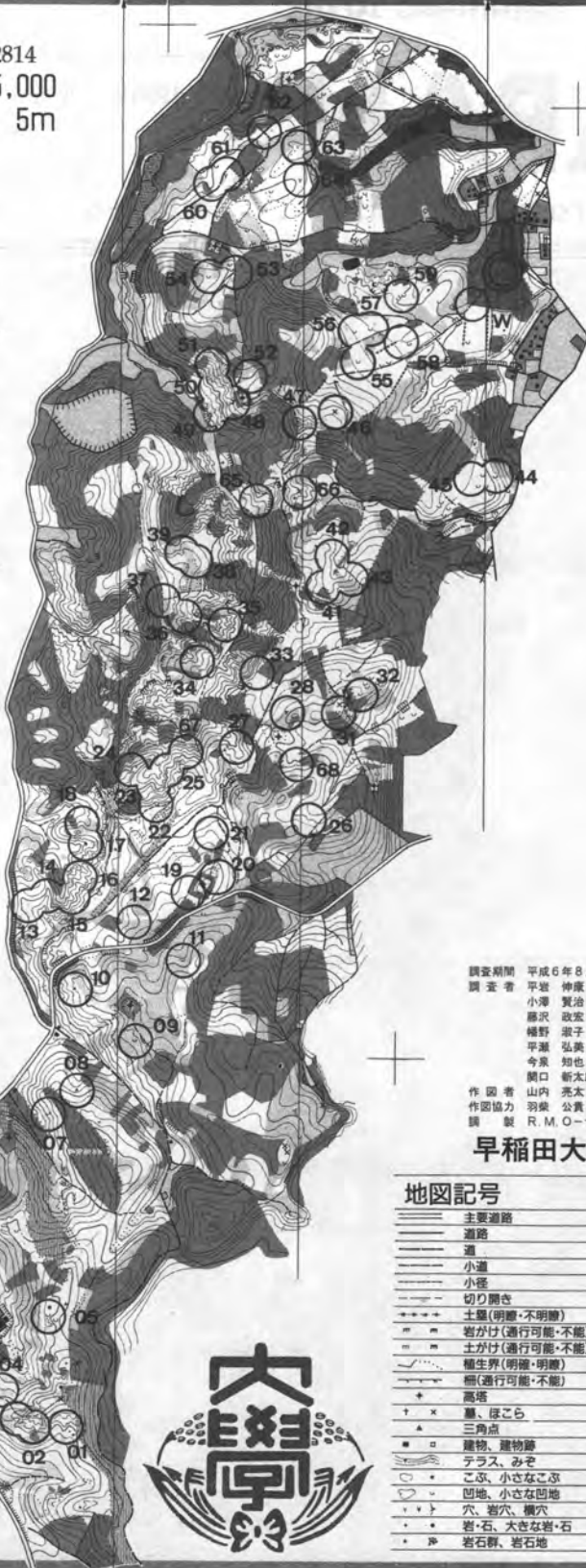


緊急連絡先
 TEL 0439-35-2814
 縮尺 1:15,000
 等高線間隔 5m

第17回早大OC大会 1995.2.19(日)

天恵米の里 (小櫃Ⅲ)

千葉県君津市



ALL CONTROLS 65
 百の位の2は省略

調査期間 平成6年8月~7年2月
 調査者 平塚 伸康 志村 聡子 高野 真弘 竹中 康 渡辺 敬
 小澤 賢治 島崎 達夫 高橋 英樹 寺井 真之 東條 敬
 藤沢 政宏 山内 亮太 石澤 俊崇 羽柴 公貴
 稲野 淑子 加藤 直子 三枝 愛 代田 将己 平川 晶子
 平塚 弘美 星 真由美 三俣 麻奈 森 達一郎 若松 尚美
 今泉 知也 清水 達也 村田 高男 山田 直樹 園田 桂子
 関口 新太郎 前田 一成 関島 功
 作図者 山内 亮太 高野 真弘 竹中 康
 作図協力 羽柴 公貴
 調製 R.M.O-サービス / 印刷 (株)武橋堂 1995.2

早稲田大学オリエンテーリングクラブ

地図記号

- | | |
|----------------|----------------|
| —— 主要道路 | —— 運れない川、水路 |
| —— 道路 | —— 川、水路 |
| —— 道 | —— 湧水点、小川、堰 |
| —— 小道 | —— 季節的水路 |
| —— 小径 | ○ ○ 井戸、貯水槽 |
| —— 切り開き | ○ × 切り株、倒木、独立樹 |
| —— 土壁(明瞭・不明瞭) | □ クリアリング |
| ■ 岩がけ(通行可能・不能) | □ 立入可能な開けた土地 |
| ■ 土がけ(通行可能・不能) | □ 立入禁止の開けた土地 |
| —— 植生界(明瞭・不明瞭) | □ 民家等の敷地 |
| —— 柵(通行可能・不能) | □ 果樹園・樹木畑 |
| ■ 高塔 | □ 開けた湿地 |
| ■ 墓、ほころ | □ 水田 |
| ▲ 三角点 | □ 湿地 |
| ■ 建物、建物跡 | □ 不明瞭な湿地 |
| △ テラス、みせ | □ 荒地・植林地・伐採地 |
| ○ ぶら、小さなぶら | □ 走行可能 |
| ○ 凹地、小さな凹地 | □ 歩行可能 |
| ○ 穴、岩穴、橋穴 | □ 通行困難 |
| ○ 岩・石、大きな岩・石 | □ しいたけ床 |
| ○ 岩石群、岩石地 | □ 常時立入禁止 |

Ryo Ta

W.U.O.C. NO.21



スキーオリエンテーリングを
冬季五輪へ
IOF 初ベックプロジェクトのロゴ

■今月の表紙：2月12日、全日本リレー大会。
優勝した静岡県のアナカ・
小林 哲選手（ゴール手前）。
【撮影：桐田 幸宏氏】

■今月の地図 [2 4-7]：2月19日、第17回
早大OC大会全コントロール図。
コード表は付録のオリエンテ
リングカレンダー裏面に。
【提供：早大OC寿会】



＝ EVENT REPORT ＝

- ・ 第3回 全日本リレー オリエンテリング大会 岩出 雅人 … 4-5

＝ 阪神大震災 ＝

- ・ 現地からのオリエンティアの声
中島 康雄・岩倉 毅・森岡 裕起 … 6-7

＝ SQUAD REPORT ＝

- ・ WOC95セクションレースについて 桐田 幸宏 … 8-9

＝ IOF ＝

- ・ スキーオリエンテーリング
SKI-O OLYMPIC Project Pamphlet 訳・田口 肇 … 10-11

＝ オリエンティアのための本棚 ＝

- ・ 第15回：川島誠「800」マガジンハウス
文：村越 真ノカット：早川 喜代美 … 12

＝ 全国PC愛好会のページ ＝

- ・ パーマネントコース りば〜と
大高 竜亮、木佐木 輝雄 … 13-14

＝ お知らせのページ ＝

- ・ 中四九連絡会ご案内 ・ 植林参加者募集のお知らせ
・ ご購読登録更新のお願い ・ 阪神大震災義援募金継続中
・ 編集部より … 16

＜ EDITOR'S COLUMN ＞

早春。いくつになっても心ときめく季節である。今年は、この分室のある山では雪が少なかったのか、いつもより早く露の曇が顔を出した。昨年までなら、地酒と共に天ぷらに吸い物にと、そのほろ苦い風味を楽しんだものだが、今年はいけない、ただ苦く感じるだけ。酒が呑めない…。医者に禁じられてから半年近くなるのに、あまり変化はない。極力ストレスを感じないように、ここ数年そのようにしているが家の電話は家内まかせで成るべく出ないようにし、時には大きな手帳にはさみ込んだ般若心経を口ずさみ、腹をたてず、興奮せず、人からマルくなったといわれてただ苦笑い、長年の暴飲を天からたしなめられ、晩酌を飲らなくなつてO-JAPANの仕事は早くなり、まあ、これで良いのか…、と思う毎日の生活である。

2月号の「STREAMER」にて考えていたものを今月号の書き出しにしてしまったが、実はこの時期（指導者研究協議会…という名称？ や、JOA総会の前）には私からアピールしておきたい事がたくさんある。今年「選手登録」のことにみなさん一生懸命のようだから、今号では EDITOR'S Column として、少し具体的に編集者の提案を書かせていただきたい。

2～3号前だったか、「選手」よりも「オリエンティア」登録はどうか、と書いたの、このことについて、本誌 91/1 (No.90) に載せた「90年代のオリエンテーリング・運営機構を充実させよう」から引用させていただく。『JOLC時代は、「公認指導員」と「認定クラブ」というかたちでのオリエンティア登録であったが、新たに「会員登録」を行なうことで、データベースに入れし、大会エントリーのチェック、スタート・リストや成績表作成、公認指導員登録、100キロコンペの累積距離認定などの事務の簡略化とスピードアップにつながる。』一番大きな問題は、登録した者に対する「情報提供」が満足にされるのであろうか。大会（JOA主催大会、公認大会、その他の大会）のエントリーは簡略化できるのであろうか。エントリーの時にかかる参加者の手数料や料金は軽減できるのであろうか。編集者が10年以上も前から考えていた、オリエンティア登録と情報提供（本誌）との組合せ、加えて「普及・教育」「ランキング」などのワーキンググループ＝以下WG＝との結びつきがあれば、登録にはそれなりに意義があり、JOAをはじめ全てのオリエンティア、本誌にも大きなメリットを与えるであ

う。どのようなことか、次に列挙してみよう。・「事務局だより」など大きなものは必要ない。JOAに広報のWGをつくり毎月必要な情報を本誌に載せればよい。・協会員（各都道府県）から登録を受けた発送先個々に、当方から発送する。その部数分の代金はJOAが支払う＝「事務局だより」の印刷発送費で十分。・公認指導員登録料を若干値上げし、オリエンティア登録料も現在の原案の半額程度とし本誌購読料＝若干割引＝を上乗せして、共に本誌を送る。本誌購読を拒否する者には登録料のみとし、JOA情報のみをコピーしてJOA事務局から発送する。・全ての登録作業は実費程度でWGが協力してこれにあたる。現存の本誌購読登録（若梅友行氏のご努力による）を転用すればよい。宛名シールをプログラムや成績表の発送に利用すれば、「行」「様」の問題などは一気に解決する。・参加資格のチェック、スタートリストや成績表の作成は本誌に委託すれば（表紙の体裁は本誌のとおりとし、「増刊号」としなければならぬが）第三種郵便扱いができる。以上のことは既に1988年の「関ヶ原大会」で実施済みである。

今年には編集者としても、外国誌のような積極さで主張を続けていきたい。

＜編集責任者・田口 肇＞

第3回全日本 リレーオリエンテーリング 選手権大会

岩出 雅人

2月12日愛知県瀬戸市定光寺野外活動センターを会場として、第3回全日本リレーオリエンテーリング選手権大会が行われ、団体総合では東京都が2年ぶり2回目の優勝を果たした。平成3年度金沢市での都道府県対抗リレーを含めると今年でこの大会も4回目を数え、新たな全国大会の機軸として定着しつつあり、各都道府県の取組み方もより真剣なものとなり、激しいレースが展開された。

HEクラス

HEクラスは日本のトップクラスの選手が顔を揃えた。昨年度優勝の神奈川、惜しくも2位の東京を軸に、東北大パワーの宮城、村越・平井の二枚看板に松澤・小林哲のインカレシードコンビを加えた静岡、実力者の揃った京都と、どこが優勝してもおかしくない顔ぶれとなった。

1走ではまずエース入江を投入した宮城がリード、愛知(稲葉)・静岡(松澤)が1分以内で続き、東京は2分遅れの5位、京都と神奈川は6分以上と遅れた。2走に入ると京都・中村と神奈川・稲津が快走を見せ、それぞれ11人・9人抜きを演じ2位・7位に上げる一方、上位チームが伸びず、トップ宮城から6位愛知までがわずかに1分、9位茨城まででも4分とまさしく大激戦。勝負は後半戦へと移る。静岡・村越、東京・鹿島田に加え、神奈川は朝日大会で優勝し今期好調の鈴木卓弥と上位チームが正攻法のオーターを組みエース対決となった3走では、村越がただ一人40分を切るタイムで走り16秒差でスタートした鹿島田との差を2分に広げトップにたった。2位東京に続いて40秒差で3位京都。優勝争いはこの3チームに絞られた。4走は、静岡・小林、東京・加賀谷、京都・樋口、実績のある加賀谷・樋口に対して、最後のインカレを控え気力充実の小林、かなりのプレッシャーがあったと思われるが、むしろ差を広げる形で逃げ切り、静岡に待望の優勝をもたらした。

DEクラス

HEに負けず劣らずDEも実力仲。昨年度上位の神奈川、東京、千葉、埼玉、茨城に加え、北海道と岐阜が目株。ともに地元出身の学生、北海道・金田収子、岐阜・山口純子等を加え戦力を整えている。

まず1走では岐阜(山口)・神奈川(出田)・岡山(片岡)・埼玉(三好)が秒差で続き、東京は4分、北海道は8分遅れ。2走に入ると埼玉・田島利佳が抜け出し2位神奈川(山本康世)に4分差。千葉・東京・大阪・茨城・岐阜が相次いで3走にタッチ、さらに3走から4走のリレーでは1位東京から5位神奈川までが1分差と大激戦となり勝負は4走に託された。4走の顔ぶれを見ると、東京・福士、岐阜・野田、千葉・宮本、北海道・宮川、神奈川・渡辺初実。この中で、ただ一人40分を切る快走を見せたのが福士、今シーズンは不調が伝えられ、エントリーでは補欠となっていた福士だったが勝負強さを発揮しいつもの笑顔でのゴールとなった。2位・3位には、千葉・北海道が入った。

自動計測システム

O-JAPAN紙上でも紹介されてきたように、今大会では自動計測システムが利用された。参加者の立場で見ると大成功だったようで、速報は速くスムーズに行われていた。今回はリレー大会ということで、順位の確定が第一義的なもので厳密なタイムは二次的なものだったこともあり、ゴールライン脇に置かれたテーブル上のアンテナ面に、センサーをつけた手を軽く置く方法が採られていた。個人のタイムレースの場合はゴールの瞬間の定義の問題もあり、若干技術面・制度面での問題があるものに思われた。また、すっかり定着した感のあるコンピューターを駆使してのゴールシステムも含め、あまりにハイテクが一般化することにより、かえって手作業の小さな大会が開きにくくなってしまわないか、などといった社会的(?)な面にも課題は残るものの、基本的には究極のゴール・計時システムになり得るものであることは確かで、実用化を進めてもらいたい。

兵庫県チーム

今大会には、1月17日に起こった阪神大震災による被災者もいる兵庫県チームもなんとが参加にこぎつけた。予定されていた全員の参加はできなかつたよう

はあるが、エントリーしていたほとんどのクラスで出走健闘し、HEクラスでは7位に入りポイント6も獲得した。また、閉会式では兵庫県の代表者に大会中に集められた義援金が渡された。

成

績

H E

1 走	2 走	3 走	最 終	
1 宮城—宮城	静岡	静岡	静岡	(松澤 俊行・平井 均・村越 真・小林 哲) 3.00.10
2 愛知—京都	京都	東京	京都	(諏訪 高典・中村弘太郎・鈴木 康史・樋口 一志) 3.03.51
3 静岡—静岡	静岡	京都	東京	(利光 良平・国沢 五月・鹿島田浩二・加賀谷博文) 3.05.26
4 広島—兵庫	兵庫	兵庫	宮城	(入江 崇・清水 和彦・安斎 秀樹・菊池 正昭) 3.08.30
5 東京—東京	神奈川	神奈川	神奈川	(桜井 太郎・稲津 隆敏・鈴木 卓弥・田代 雅之) 3.09.59
6 兵庫—愛知	宮城	宮城	愛知	(稲葉 英雄・井上 直丈・高島 和宏・落合 公也) 3.15.16
12 京都	7 神奈川	7 愛知		
15 神奈川				

D E

1 走	2 走	3 走	最 終	
1 岐阜—埼玉	東京	東京	東京	(金並 由香・千葉あかね・高野 由紀・福士 淑子) 2.53.51
2 神奈川—神奈川	岐阜	千葉	千葉	(小林 正子・染矢 和子・草野 望・宮本知江子) 2.58.49
3 岡山—千葉	千葉	千葉	北海道	(林 ゆかり・金田 収子・酒井 佳子・宮川 祐子) 2.59.05
4 埼玉—東京	北海道	北海道	茨城	(田中 裕子・木植 早生・石川恵美子・中村 正子) 3.05.45
5 大阪—大阪	神奈川	神奈川	埼玉	(三好 暢子・田島 利佳・新 桂子・金子しのぶ) 3.06.12
6 千葉—茨城	埼玉	埼玉	神奈川	(出田 裕子・山本 康世・志村 聡子・渡辺 初実) 3.12.43
9 東京	8 北海道	7 茨城		
11 茨城				
13 北海道				

団体総合得点

1 東京	31
2 神奈川	25
静岡	25
4 京都	21
5 千葉	19
6 埼玉	17

H S

1 千葉	(石井 龍男・小山 清・田中 徹)	2.19.37
2 大阪	(永田 実・愛場 庸雅・西田 伸一)	2.22.22
3 東京	(山岸 倫也・荒井 正敏・宇野 浩一)	2.29.11

D S

1 神奈川	(若梅 節子・今井 栄・大場 節子)	3.11.48
2 愛知	(若松りつ子・鈴木 節子・鈴木 幸子)	3.12.17

[エントリー5チーム、他チームはD.N.Q.]

H J

1 宮城	(土井 聡・柿並 義宏・野田 健史)	2.14.40
2 京都	(中町 和雄・田井 利弘・山本 真司)	2.18.09
3 静岡	(和久田秀章・村江 啓介・江崎 保夫)	2.18.46

D J

1 静岡	(水口 郁子・池田 祐子・山田 麻貴)	2.31.44
2 東京	(乗松 裕子・橋田 千里・加藤 直子)	2.38.20
3 神奈川	(明光みすず・三枝 愛・平川 晶子)	2.43.36



H Eクラス静岡アンカー小林選手スタート

*順位・タイム・得点は速報によるもの

阪神大震災

現地からのオリエンティアの声

阪神大震災から早1ヵ月以上が過ぎた（本誌が届くころには2ヵ月が過ぎているだろう）。地震直後、阪神地区に在住するオリエンティアの安否についてはパソコン通信などで、あるいは口伝で、多くの情報が伝えられた。直ちに現地に駆けつけられたOLP兵庫の中島さんや、神戸大OLKの森岡君などからもたらされた情報は、安否を気にかける多くのオリエンティアに安心と感動を与えたものである。当事者の方々に原稿をお願いさせていただいた。安否を気づかれる読者の皆さんへの一助にもなれば。（桐田）

中島康雄（OLP兵庫）

1995.2.23

あの日から1ヵ月、小南美好さん（M50 OLP兵庫）を宝塚小学校に尋ねた。あの時二階が落ちてきて命からがら脱出「恐かったでえ」と言っていた彼は、避難所である小学校の体育館で、8度8分の高熱を発していた。行く前にちょっと彼の家があったところをのぞいてみたが、壊れた家も潰れて軒を支えて彼を救った愛車もきれいになくなっていて。預かりものは全部持ち出して、同業の下田さん（M45 宝塚市）に協力してもらって仕上げ中とのことであった。「それもまもなくかたがつく、そしたら一段落、これからのことはそれからゆっくり考えるわ」ということだった。

佐藤克之さん（M50 OLP兵庫）からは葉書をもらった。「悪夢の日から早1ヵ月が過ぎ、大きな余震があるという不安感からようやく開き直りができるようになりました…全日本には是非参加したい」彼は尼崎市役所に勤務していて、自分のことより、役所に泊り込みで被災者対策に当たっていたのだ。

家具が飛び回って自らも下敷きになった磯部貞夫さん（M55 OLP兵庫）「幸運にも3週間目にはガスが出て比較的早く平常に戻った。とは言うもののテレビは下に置いたまま本も上には積まない、みんな下に並べて片付ける気にもならない」そうで、こちらはまだ余震を警戒。

同じ様に家具が倒れてきたもののうまい具合にあいだあいに倒れてきて無事、千代子（長女）は普通だったら下敷きのところがたまたま寝る位置を変えていたので助かった、そやなかったらいまごろは……と紙一重を地をいった形の井口邦弘さん（M50 OLP兵庫）。その時はさすがにショックを隠し切れない様子だったが「ようやく気分も落ち着いてきた、生活の方はガスも早くから出るなど回復は早かった、全日本には是非いきたい」と元氣回復。

一方「水は出るけど、飲むなど言われてる、ガスがまだ来ない、全く非文化的な生活や」とぼやきながらも周りの被害をよそに新築の建物は無事だった上野栄三さん（M55 OLP兵庫）は、社会保険労務士を目指して猛勉強中です。

マンションの住人は恐がってみんな出ていった。私一人で頑張っていると語っていた土田伸行さん（M55 宝塚OLC）は「戦時の体験が役立った、若い人達よりずとうまく動けたと思う」と余裕綽々。

被災地のオリエンティアは元氣です。

兵庫県南部地震と阪神大震災

OLP兵庫 岩倉 毅

地震は目覚まし(5:30セット)が鳴ってから十数分後に起きた。ステレオのスイッチが5:50に入るまで布団の中でうだうだしていた。仕事のため少し早く起きるつもりだったのだが、この朝寝坊が功を奏したことになるのも不思議なものだ。真下からの徐々に大きくなる地響きと共に、建て物ごとシェークされているような縦揺れと横揺れのミックスされたものすごい揺れが始まり、立ち上がろうとか動こうとかは思いもつかなかったし、実際、布団の中でじっと揺れを堪えている以外に何もできない・・・そんな感じだった。そして、その最中の音はまるですぐ横でビル工事を行っているような規則的な大きな音「ドッカン、ドッカン」の中に、「パリン、パリン」というガラスの割れる音や「ドサッ、ガサッ」といった音が入り交じった音で、この大音響はその揺れの後の静けさと揺れそのものを更に大きなものだと思わせるには十分だった。

ここまでが兵庫県南部地震そのもの。実際はこの後の阪神大震災といわれる「震災後」の部分の方が我々被災者には長く、辛い時期である。

懐中電灯や携帯ラジオを手元に備えていなかった私達にとって、夜明け前の停電はかなり辛いものであった。シーンと静まり返った世界の中で「サーッ」という雨の音。まずは傘だ・・・と思った瞬間、「この真冬の中、雨は辛いなぁ」というのが最初に考えたことであった（実際は水道管の破裂の音）。明るくなるにつれ、付近の惨状が目に入る。（私の住んでいた地区は震度7の激震地区で、その中でも家屋の倒壊状況は現状では最悪の地域に属するらしい。火災が発生しなかっただけでも幸いである。）

余震の続く中、今考えると非常に危険な、倒壊家屋からの人の救出。大家さんを2～3時間かけて救出できた後は、さすがに午後になってこれからのことが気になり、妻を従えてその日の宿探しを始めた。幸い自家用車の被害はなく、車の中に積んであったシュラフで車の中に寝たが、過敏になっているせいもあって、1日目の余震はかなり大きく感じた。

翌日、OLP兵庫の藤崎さん（その後、彼の下宿や勤務先、実家を転々とさせてもらった）の助けを得て、妻を神戸市灘区から実家の仙台に2日掛かりで無事返すことができてからは、気分的にも楽になったが、このシュラフの生活が断続的に続き、あのような都道府県対抗リレーの最悪の事態（大会前日に急性胃炎で嘔吐、下痢を繰り返す。当日は微熱も出て脱水症状）を招いてしまった。（期待を裏切ってしまった兵庫県(OLP)の皆さんや、御迷惑をおかけした皆様には、この場を借りて深くお詫び致します。そして、温かく看護、お見舞いをしてくれた方々、本当にありがとうございました。）

スタート前からフラフラだったが、中盤から登りは走れなくなり、後半は下りすらも走れないところが多くなり、意識がもうろうとしてきて、ゴール前後の記憶はかなり断片的にしか残っていない。

既に大阪に引っ越しを終え、一見、もう震災とは無縁に社会復帰できていると思われるかもしれないが、未だに震災に関する事務処理や家財の買い揃え等で忙しく（体力もなく）、まだ段ボールに埋もれている毎日である。未だにあの揺れは忘れられないし、ちょっとした揺れでも、また自分の鼓動ですら、「あっ、地震だ」と過剰に反応してしまうのは、地震の後遺症のようなものだ。完全に落ち着きを取り戻すには、まだまだ時間がかかりそうだ。

でも、まだ避難所暮らしをしている方から比べれば、また、命があるだけでも、かなり幸せなのだということは痛感している……。



95/02/25 11:34

全日本リレーを走る岩倉選手（ゴール直前）

揺れる神戸大学OLK

森岡裕起

兵庫県南部地震の被災者の皆様に、心からお見舞い申し上げます。

この地震は、関西の人間にとっては、まさに思いもよらぬ出来事でした。我々の通う神戸大学は、神戸市灘区にあるため、下宿生はその近辺で一人暮らしをしていて、地震の影響をまともに受けたのです。当日のテレビは、地震でどうすることもできない市民や、ベレハンこにつぶれた家屋などを写し出しました。神戸がどれだけひどい状況にあるかを知るには十分なくらいでした。またライフラインが途絶えているとか、かなり広範な地域で火事になっているとか、神戸の惨状が一方向的に流し出されました。私は、九州を旅行中で、この様子をフェリーで見ながら、翌朝大阪につきました。大阪は思ったより被害が少なかったのですが、私はサッカー一杯に、水と食べ物をつめて神戸へ自転車を走らせました。西宮、芦屋と神戸市内へ近づくにつれて、ひどく崩れた家屋や倒れた電柱が歩道をふさぎ、また車道はデコボコになっていて、通行可能度Cの連続体でした。テレビでは見ることしかできなかった「神戸」が、ある種の気をおびて感じる事ができました。一刻も早く下宿生の安否を、と思い、必死にペダルをこぎつづけ、ある下宿生の家へ着いたのです。そこには、他の下宿生もいて、避難所と化していました。その下宿生は、家がつぶれてしまったため、身を寄せるところを求め、その場所にいたのでした。地震直後生き埋めになって助け出されたことや、まわりの惨劇を話してくれましたが、本当によく助かったな、と思わせるような内容でした。実際、現地に行ってみると、想像を越える何かが存在していたような気がします。

神大OLKをもうひとつ悩ませたのが、クラブとしての活動をどうするかということでした。当初、私はこんな状況で、インカレに出るのはどうかと思っていました。大学で集まることはまず無理だし、家財道具一式を失ったメンバーもいます。クラブとしてこの大事な1~2ヵ月を、生活するために費やすだけになってしまいます。こういう人がいる中で、それでもインカレに出るのか。私の結論はこうです。そういう人はいるのだけれど、今は自分の頑張ってきたことを無にはしたくないので、インカレには出場する。そして、自分のできる限りのことをして、インカレに臨むということです。全員は参加することはできませんが、参加できない人には、何とか頑張ってもらって早く前のようなクラブ活動ができるように、そして、参加できる人は、自分たちの目標としてきたインカレを何とか乗り切って、クラブを明るくするようにすることが、まずは第一歩になると思います。自分のできること、やれることに向かっていくのが、私のベストルートだ、と私は信じています。だから今こそ真剣に自分のできること、やれることを考え、各人それに向かって頑張っていくのが、いいのではないのでしょうか。

阪神・淡路大震災支援 チャリティーリレーOL大会 開催のお知らせ

日時：3月25日（土）（全日本大会の前日）
地図：「七里2」（栃木県日光市・今市市）
会場：今市市立中央公民館
主催：チャリティー大会実行委員会

交通：JR今市駅または東武日光線下今市駅からテープ誘導 徒歩10分～20分

受付時間：9時30分～10時00分

競技形式：1チーム3名によるリレーオリエンテーリング

クラス：MA,WA,SA,B

(MA・B：制限なし WA：女子のみ)

SA：35歳以上のシニアのみ)

1走スタート時刻：11時00分（予定）

問い合わせ先

愛甲智弘 048-471-0809（21時-23時）

E-Mail：END58977@pcvan.or.jp

酒井清隆 03-3559-9240（自宅）

E-Mail：ksakai@ml.t.u-tokyo.ac.jp

収入から実費を差し引いた全額を阪神大震災の被災オリエンティアにチャリティーします。具体的には、全額を兵庫県OL協会および関西学連に渡し、配分はそれらの団体に一任します。

参加費以外に任意の寄付金も受け付けています。（大会要項より）

主な運営者
愛甲智弘（早稲田大学卒）
安斎秀樹（東北大学卒）
木俣 順（名古屋大学）

酒井清隆（東京大学卒）
竹沢 聡（東京大学卒）
竹下俊輔（筑波大学卒）
高島和宏（東北大学卒）

SQUAD REPORT

WOC95セクションレース / エリートポイント95 / APOC96選考

WOC95セクションレースについて

WOC95の予備セクションレースも、残すところ全日本大会1レースのみとなった。早大OC大会終了時点でのセクションポイント上位者は次ページのとおりである。ポイントは上位2レースの合計となっているので、ボーダーちょい下ぐらいの選手は全日本で一発逆転がまだまだ可能である。予備セレの最終結果に基づき、下記ルールにより本セクションの出場者が決定される。そしてその本セクションのレース日程が下記のとおり決定した。SQUAD BULLETINの原稿から重要事項

を転載しよう。本セクションに関する報告記事はこれからも随時掲載していく。

なお来年度ワールドカップ・APOCなどの日本代表選手選出の参考となるエリートポイント95の指定レースも決定した。早々に春の2大会（多摩OL大会・大阪OLC大会）が指定レースとなっている。本誌の記事で間に合うかどうか微妙だが、エントリーをお忘れなく。

選考レース日程（日程変更）

本選考レースを以下のように実施する

- (1) 選考レース1 5月14日（日） 優勝タイム70分（65分）（ ）内：女子
熊の木（栃木県塩谷町）または棚倉街道（94年筑波大会）
- (2) 選考レース2 5月28日（日） 優勝タイム45分（45分）
五町田（93年度群馬インカレ個人戦）

2月号発表の、レース1の5月7日を14日に移したのは、連休を合宿・練習などに集中して使いたい旨の希望が一部の選手から出されたこと、この時期に集中して練習することが、特に忙しい社会人にとって重要であると考えたためである。

選考レース1は、世界選手権クラシカルの予選を意識したレース時間、選考レース2は、世界選手権ショートおよびリレーの1、2走を意識したレース時間である。

出場資格者

- (1) 1995年世界選手権セクションポイント対象レースで優勝したもの。
(2) 上記の選手を除いて、1995年世界選手権セクションポイントで
上位20位（女子15位）—上記の選手数 以内の順位に入ったもの。
(3) SQUADが推薦したもの。推薦があるのは次の場合である。
- 上記人数の選手に辞退が生じた場合。5人以内で上記人数に続くポイント獲得者が推薦されることがありうる。
 - 予備セレ通過の実力を持つものが年齢・怪我・出産その他の特殊事情により上記人数枠内に入らなかった場合。

代表選手選考方法

- (1) 94年度全日本選手権者。
ただしこの者が辞退あるいはその他の理由で選手とならなかった場合は繰り上げは行わない。
- (2) 各選考レースの上位1名。
ただし上位1名が辞退あるいはその他の理由で選手とならなかった場合は繰り上げは行わない。
また (1) の選手が辞退その他の理由で選手とならなかった場合、選考レース1では上位2名の選手を選考する。
- (3) 選考レース1、2の順位の合計が最も少なかったもの1名。
（同点者がいる場合、選考レース1で上位のものを採用する）
- (4) 日本選手団のジェネラル・マネージャーが選考会および過去の成績により選考するもの1名。
（ジェネラル・マネージャーは、近日中に決定される予定）
- (5) 補欠・欠員の補充はすべて (3) の方法による順位合計の少ないものから順に行う。

今回、順位の合計を採用したのは、世界選手権のクラシカル・ショートとも予選の通過で最もクリティカルなのは順位だからである。

申し込み、未決定事項についての詳細は、全日本時に対象者に配布される要項に掲載される。その他質問などは、SQUAD強化部（山岸・村越）まで。

WOC95 セレクションポイント中間結果(上位のみ)

1995年世界選手権男子セレクションポイント

氏名	合計	東日	西日	朝日	千大	早大
1 村越真	40	20		13	20	20
2 鹿島田浩二	38	19		19	17	19
2 鈴木卓弥	38	17		20	18	
4 入江崇	37	18			19	17
4 富田吉郎	37		19	18		
6 加賀屋博文	36	15	20		15	16
7 吉田勉	34	16	18			9
8 利光良平	31		14	17		1
9 鈴木康史	29		16	4		13
9 樋口一志	29	12	15	14		
11 落合公也	28	10	12	9	16	
11 元木悟	28		17	11	11	5
13 稲葉英雄	27			12		15
14 武田光	25	9		16		
15 広江淳良	24	13	6			11
16 菅原琢	23	8	3	10	13	2
17 松沢俊行	22		4			18
17 鈴木雄輔	22		11			11
17 佐藤隆徳	22	7		15		4
20 田代雅之	21		9	1	3	12
20 山本英勝	21	6			14	7

1995年世界選手権女子セレクションポイント

氏名	合計	東日	西日	朝日	千大	早大
1 木植早生	29	14	14	7		15
2 酒井佳子	26				14	12
2 田島利佳	26	8	12	14	6	11
4 加納尚子	25		13		12	
4 志村聡子	25	9	10	3	15	
4 高野由紀	25	6		9	11	14
7 宇野明子	24	13		11		
7 宮本知江子	24			15	9	
7 千葉あかね	24		11	5	13	6
10 山口純子	23		15	8		
11 金並由香	22	10		12	5	3
12 金子しのぶ	21	2		13		8
13 鈴木夕紀子	20	11	9			
14 浜田由紀	19	4		6		13
15 宮川祐子	15	15				
15 三好暢子	15		1	1	10	5
15 金田収子	15	5		10	2	

予備セレ大会における1位獲得者
(無条件で予備セレ通過者となる)

エリートポイント95について

次の10大会の最高クラスを指定レースとする。

● 多摩OL大会	95.4.30	東京都	● 千葉大大会	95.11.11	千葉県
● 大阪OLC大会	95.5.4	奈良県	● 朝日大会	95.11.26	埼玉県
● 東大大会	95.6.4	群馬県	● 西日本大会	95.12.3	岡山県
● 東日本大会	95.10.15	富山県	● 早大大会	96.2.	?
● 筑波大大会	95.10.29	?	● 全日本大会	96.3.24	奈良県

- 男子は各レースの1位に25点、2位24点、3位23点…25位1点の得点を与える。
- 女子は各レースの1位に20点、2位19点、3位18点…20位1点の得点を与える。
- 得点の高い3大会の合計点を年間得点とし、この得点でランキングを決める。
- 全日本大会のM21E・W21Eクラスの得点者には、男子は3点・女子は2点の追加点を与える。
- したがって、男子は1位28点～25位4点、女子は1位22点～20位3点となる。
- 最高クラスと同じコースの別クラスがある場合は、両クラスの混合順位とする。(例：W21EとW19-20E)
- 男子の最高クラスが同レベルの2つのコースに分かれ、選手が無作為に両コースに振り分けられている場合は、両コースとも1位25点、2位23点、3位21点…13位1点の得点を与える。(例：ME1とME2)
- 公認大会の19-20Eクラスでは1位15点、2位14点、3位13点…15位1点の得点を与える。
- ただし、この得点は順位の高い1大会だけ適用される。

*なお、エリートポイント95は、APOC96及び96年のワールドカップの日本代表選手選考の参考にする予定です。

APOC96の日本代表選手選考について

来年1月に香港で開催されるAPOC96の日本代表選手は、エリートポイント95の対象大会のうち前半の5つの大会(筑波大大会まで)を対象とし、得点の高い2大会の合計点を参考に選考する予定。(得点方法はエリートポイントに準ずる)

*なお、APOC96のエントリーズきり日程次第では、対象大会が減る可能性もある。

スキー オリエンテーリング = オリンピック・スポーツとして =

Ski-orienteering — A sport for the Olympic Games — I O F Olympic Project

その歴史

スキーオリエンテーリング（スキーO）の起源は1890年代に遡る。多年にわたり、このスポーツは北部スカンディナヴィア地方に限られ、森林伐採用の小道をベースとして行われていた。その頃は30～60kmの非常に長い区間をもったリレー競技が主流であった。その後このスポーツは発展し、1949年にはオリンピック・スポーツとして認められている。しかし未だにオリンピック種目にはなっていない。

方向決定

競技の間中スキーヤーはどのルートが最も早くコントロールに着けるかの決定を常に下さなければならない。小道の種類や距離、難易度について常に考えてなければならない。コントロール間で競技者は小道の分岐ごとに正しいルートをとっているかどうかの確認をしなければならない。

スタート～ゴール

競技者はスキーオリエンテーリングのために調整されたクロスカントリー用のスキーを履き、スキーオリエンテーリングのための特別なマップホルダー、コンパス、コントロールカードを持って行なう。

競技は決められた合図でスタートし、スタートポイント（地図上にパープル色の三角形で示されている）を通過する。そして一番目のコントロールへのベストルートを選ぶ。この決定のために助けとなるものは、地図上に緑色で記された異なった小道の種類である。

- 実線の小道、幅2 m以上
- - - - - 破線の小道、幅1.0 - 1.5 m
- 点線の小道、幅0.8 - 1.0 m

競技者はまた、坂道の勾配や他のルートをとった場合の距離なども考えなければならない。

コースには競技者が給水やコーチからのアドバイスを受けたり、壊れた用具を取り替えたりできる特別なコントロールを設ける（右ページのコースでは、コントロールNo. 7, 18, 28がこれに当たる）。

この地図は1993年のスキーO第5回ワールドカップで使われた地図である。このコースは1人リレーのかたちの長距離レースで、10番と22番のあと地図交換を行なう。競技者が3走区全部走り終ると

コントロールカードには32の記号がマークされることになりゴールとなる。この競技が行われる時はマススタートの方式が採られ、したがって最初にゴールラインを通過した者が優勝者となる。

スキーOの地図

地図にはコントロール間の最良のルート選択ができるよう、必要なすべての情報を競技者に与えるべくデザインされている。クロスカントリー・スキーのできるだけ早い、すなわち競技スピードでスキーヤーが地図読みができる見やすさをもったものでなければならない。

・地図から何を読み取るか？

地図には植生の状態、等高線による地形、水路、大きな岩、がけ、建物、高圧線などの特徴物などの情報を競技者に与えることが必要である。

巨距離と

スタートの方法

・ロング・ディスタンス
この競技のコースはだいたい30 km（最も短くても20 km）程の距離で行なわれ、トップの所要時間にして90～100分（70～80分）が適当である。この距離では1人リレーで行なう。

・ショート・ディスタンス
約10 km（7.5 km）、トップの所要時間30～35分が適当である。この距離に適したスタートは2人ずつ行なう方法である。

・リレー
同時スタートがエキサイティングである。距離は4人×15 kmぐらい。

・タイムスタート
伝統的なスタート方法。2分間隔ぐらいが適当。

・ペアスタート

2つの走区をもったコースでの競技で用いられるスタート方法である。2分ごとに2人ずつスタートする。もちろんこの2人は異なった走区を走り、1走区終わった後、地図交換を行なう。

・ワンマンリレー（1人リレー）

スキーOにおける新しいスタート方法であり、前述の1993年の第5回ワールドカップ大会で行なわれたのが最初である。この方法は常にスタートの盛り上がりを持ち、最初のゴール者が勝者であり、観衆やメディアにレースに対する興味をより一層与えるものである。

スキーOの用具

- ・マップホルダー
胸につけて、スキーをしながらの地図読みを可能にし、そのスキー技術に影響しないように工夫されたものである。
- ・コントロールカード
スキーヤーの腕につける。バンチはフットOと変わらない。
- ・コンパス
コンパスはマップホルダーか腕につける。

スキーOの テレイン

＝ 冬季五輪でのスキーOの運営 ＝
会場としてはクロスカントリースキーの距離競技とバイアスロン競技のスタジアムそのものが使用でき、テレインとしても、その双方の場所が適している。

スキーOの競技運営所要時間はほぼ2時間。それから考えると競技者の数は最大男女各50人ずつぐらいが適当。

観衆やメディアの立場からしても、クロスカントリー競技と同じような方法で行なわれればよいだろう。競技者は競技中2回またはそれ以上スタジアムを通過することになり、会場や林の中のカメラ位置もクロスカントリーやバイアスロンと同じでよい。すなわち、スキーOの準備や運営はクロスカントリーやバイアスロンで使った（または使う）ものと同じものが利用できるのである。

国際的なスキーO

1975年以来、スキーO世界選手権大会が2年ごとに行なわれている。競技は、ロングディスタンス、ショートディスタンス、リレー種目、そして各男女で行なわれる。

正式なスキーOのワールドカップが最初に開催されたのは1989年と歴史は浅い。

また、第1回のスキーOのジュニア世界選手権大会は1994年3月に16か国が参加してフィンランドで開かれている。

その他のスキーOのメジャーな国際大会では、“北米カップ”、中央ヨーロッパの“アルペンカップ”、“ノルディックオープン”があり、1995年冬季にも各国で大会が計画され実施されている。

[国際オリエンテーリング連盟発行のスキーOの普及用パンフレットより＝訳・編集部]
Abridged Translation: Hajime Taguchi



オリエンティアのための本棚



第16回：海老沢泰久「F1地上の夢」朝日新聞社

文：村越 真／カット：早川喜代美

「脚が速いのにどうして勝てないんだろう？」脚に自信のあるオリエンティアなら一度はこう自問したことがあるのではないだろうか。前回紹介した800m以上にオリエンテーリングは、コントロールの競技である。どんなにスピードがあってもルートに適したスピードで走らない限り勝利をつかむことはできない。走力や技術、そして精神的なバランスが要求されるところに、オリエンテーリングのおもしろさも難しさもある。

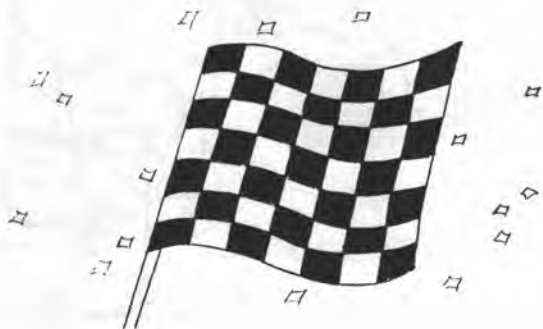
1964年にF1に参戦し、高い技術力と飽くなき追求心で最高のエンジンを作りながら、ホンダがようやく1勝を上げたのが翌年の最終戦であった。しかも、その後も決して順調な道のりを歩んだわけではない。排気量のレギュレーションが31に変わった66年67年には、出力で10%も劣るコスワースのエンジンの足元にも及ばなかったのである。ホンダの技術陣も、おそらく同じような自問を繰り返してきたはずだ。「F1地上の夢」はその物語なのである。

確かにホンダのエンジンは直線の多い高速コースでは強みを発揮する。最高の回転数時の出力ではどんなエンジンにも負けなかった。しかしレースは最高速度でのみ行われる訳ではない。むしろカーブで回転数が落ちた時にいかに安定した出力を維持するかが、勝負を決する。この点でホンダのエンジンには欠点が多すぎた。また高い馬力にマッチしない車体は、タイヤに大きな負担をかけた。一度タイヤ交換をすると30-40秒のロスがあるという。博打に出て、コース途中でバーストしてしまえば、レースがパーになるどころか、ドライバーが危険にさらされる。タイヤに高い負担をかけるホンダのエンジンをつんだ車は、他のチームが一度タイヤ交換をするなら2度、交換しなくてすむ場合でも1度はタイヤ交換が必要である。これでは1周につき2秒早くても、タイヤ交換の遅れを取り戻すためには20周も必要なのだ。こんなことはチャレンジしてみればすぐにおかしくわかることだが、そうしなければ想像もできないことであっただろう。

F1レースなんて速い車に乗って、うまい運転をすれば勝てる、と単純に思っていた私にとって、そこに描かれるF1の世界は想像を越えるものだった。登載ガソリンが220lに制限された1984年の第1戦などもその象徴的なレースと言える。限られた燃料を

上手に使ってなおかつ速く走るなんてことは誰にとっても未経験のことだったからである。出場26台中18台が脱落、ターボ車については22台中17台までが最後まで走りきることができなかったのである。ホンダにとってのレースは、こんなトラブルの連続であった。そして初参戦から23年目の1986年、ようやくホンダはコンストラクターズチャンピオンの座を手にするのである。

F1への挑戦がホンダの技術力を高めたとはよく言われることである。それは半分は当たっているし、半分は因果を間違えている。F1への挑戦も高い技術力が培われたのも、その飽くなき追求心によってなのである。影響を受けやすい私は、「スポーツをやる以上、やっぱ世界チャンピオンだよなあ」と思ってしまう。もちろん自分自身がではない。日本のオリエンテーリング界において、それは遠いところにある漠然とした目標かもしれない。しかし情熱と探求心をあれだけ傾けたホンダでも、これだけの苦勞をしたのである。私たちはまだ、それだけの努力をしていないではないか。そしてチームとしての挑戦を始めてからまだ10年しかたっていないのだ。世界チャンピオンへの道のりのどこかに自分の居場所が見つかれば、競技者としては本望と言えるだろう。



パーマネントコース



りぼんと

□1994年9月26日(月)
秋田県 No.12 ~大高 94-27~
「天王いこいの柔柔」

[距離] 8 km
[ポスト数] 10本 O-MAP

男鹿線「戸出浜」駅より秋田中央交通バス船川線で「天王グリーンランド」下車。駐車場近くにマスターマップ、スカイタワー受付にマップがある。この日、訪れてみると新設コースにもかかわらず、マスターが全く読めなかった。ここまで来て帰るのも悔しいので、方々連絡を取ってみると、マップを送っていたいた県協会の山内さんが直接来て頂けることになった。30分程して見えられた山内さんに直接コースを記入してもらい、無事スタートすることができた。コースを終えて案内板に戻ってみると、中のマスターも新しくなっていた。さて、マップは今年の4月に調査が終わったもので、グリーンの通行可能度も入っており、大会にも使用できる。ゲレンデ全般に白が多くOLにはうってつけ。ポストは平成5年度の郵政省からの補助金で立てられている。今年できたばかりのコースでポストも新しく、途中には海岸を歩くところもあり爽快なのだが、コースを終えてみて100%満足いかない点が残る。それはまず、②がない。地形からも特徴のある地点なので間違いないのが見渡す限りポストはない。マスターの記し違いかもしれないと思って周囲も限なく探したが発見できなかった。一体どうしたことだろう。ただ郵政省の補助金で立てられたポストは10ポストの場合、A~Jを並べ変えただけなので、このポストはCであることは間違いない。そして、⑦から主要道路に抜ける道が悪く、⑧への往復がはっきりしない。秋田県下では久々の新設コースだけに、良い状態で管理されて行って欲しいものである。(秋田県OL協会 ☎0188-63-9532)

□1994年9月27日(火)
青森県 No.11 ~大高 94-28~
「津軽富士見湖」

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本 PC-O-MAP

五能線「陸奥鶴田」駅より弘南バスで「津軽富士見荘前」下車。「津軽富士見荘」がスタート地点で、マップを求めると、暫く探してきてくれた後、一枚だけ

あったと言って持ってきてくれた。一枚しかないで私の持参したコピーマップと交換なら譲って頂けるとのことだったので、そうさせてもらった。青森県のPCは、No.6の「鯉ヶ沢」から後に設置されたコースは一覧表ではなかなか紹介されず、知る機会が殆どなかった。私も3年前にJOAから頂いた一覧表で初めてその存在を知った。このコースもそのうちの一つで、12年も前に開設している。コースは青森らしく、林檎畑のなかを終始歩く。駅前の岩木山を仰ぎながらのPCはなかなか爽快である。ポストの整備状況はいかにも目の目を見ることなく廃れてしまったという様相を呈しており、大半のポストは頭が落ちていた。①は林檎畑と林の植生界で、頭は藪の中。②は池の辺で頭は棒の下。③は道のない林のなかでこれも壊れている。④は整地されたのか不明。⑤は道からやや奥に入っており、頭はやはり落ちていた。⑥は通行可能抜群の林のなかで、道からは棒のみ見える。頭は足元。⑦は荒地と田圃の境にある筈だが分ならず。⑧は工事で撤去され、現場の隅に棒のみ残っていて頭不明。⑨は「屏風山」にあり、このコースでは唯一頭がしっかり付いている。⑩も頭が落ちていた。雪国のコースだけに整備されなくなればこのような状況になるのも当然。地形はそれほど変化していないので、ポストさえ立て替えれば生き返るが、今はお薦めできない。さてこの日はこのコースを回る前にNo.7「深浦中山」とNo.6「鯉ヶ沢」、終了後にNo.8「弘前弥生」の調査に行った。先ず「深浦中山」だが、スタート地点の「深浦町中央公民館」に朽ちた案内板があったが、マップ、マスター共になし。コピーマップで③まで歩いてみたが、ポストはなかった。公民館の方の話によると、随分前に撤去してしまった筈とのこと。「鯉ヶ沢」はスタート地点の「鯉ヶ沢中央公民館」には何もなく、公民館の方に伺ってみたところ、かなり前から使っておらず、ポストは自然消滅してしまったとのこと。ここもコピーを使って③まで行って見たが、やはりポストはなかった。「弘前弥生」はスタート地点の「弥生いこいの広場」に色刷りのマップが残っていた。但し、コースは大半が造成のため使えなくなり、ポストも山奥の一部を除いて撤去してしまったそうである。夕方遅かったのでポストの確認はしなかった。利用者がいなければこのような状況も仕方ないところか。(青森県OL協会 ☎0177-76-2552)

□1994年9月28日(水)
青森県 No.1 ~大高 94-29~
「岩木山」

[距離] 4.8 km
[ポスト数] 10本 PC-O-MAP

奥羽本線「弘前」駅より弘南バス「いわき荘」行きで終点下車。「国民宿舎いわき荘」がスタート地点で案内板があるが、マスターの掲示なし。マップもここでは扱っておらず、アップロードを山の麓まで下って行った「B&G財団岩木海洋センター」内にある教育委員会保健体育課に全てある。車を使わないと不便な位置関係。マップは昭和62年に調査されたO-MAPで、コースも以前の半分に縮小された。ポストはFRPの標準サイズ。かつてのコースの①が現在の②、③が④、④が⑤。古いマップを見ると④~⑥が面白そうだが、ここはカットされている。③へは小径が不明瞭だが、はっきりした地形で見通しも効くので迷うことはない。③と④の中間の沢と④の谷は超急勾配の登り降り。⑤以降は広い道で安心して歩ける。⑨はマスターの位置から南東寄りの道の交点にある。壊滅的な青森県のPCの中では唯一生きているコースではないだろうか。OLを余り知らない方がポストを設置したのか、記号が単純過ぎる。コースが手直しされていることは余り知られていないようであるが、せっかく更新したのだから、このまま放置するのはもったいない。その後、大鶴のNo.12「あじやら」コースに出かけてみた。しかし「大鶴温泉」駅前の案内板は片隅にひっくり返されている。駅前の商店、大鶴山荘共にマップは扱っておらず、更に④⑤⑥⑧⑩と調査してみて確認できたのは⑤と倒れた⑩の棒のみであったので諦めた。

(B&G財団岩木海洋センター
☎0172-82-5700)

□1994年9月29日(木)
秋田県 No.4 ~大高 94-30~
「長根山」

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本

奥羽本線「大館」駅より秋北バスで「鳳鳴高校前」下車。案内に従って徒歩30分程の「大館市少年自然の家」がスタート地点。このコースは閉鎖されて10年近くになるが、ポストはそのままとすることで歩いてみた。外の案内板は既にないが、マップはまだ自然の家に残っていた。マスターは県協会の山内さんから頂いたものから転記した。現地にはおそら

くないだろう。全く期待せずに歩きはじめたが、先ず山道の整備具合の良さに驚く。どうやら野外活動が盛んなようで、至る所にクイズ形式のポイントが設置されている。OLのミニポストも幾つか見つけた。さて、一山登り切ったところの分岐を左折すると、これまた驚いたことに、これが廃止コースのポストかと思えるほどしっかりと①が立っていた。何か得した気分であった。歩き易い山道を進み、②は「秋葉山」山頂だがこれは確認できず。尾根伝いを暫く歩き、神社の境内に③はある。これも鮮明なポスト。山を下ると、まだ工事中の公園があり、そのトイレの前に古びた④がある。「岩神貯水池」畔にある筈の⑤は不明。周辺は奇麗に整備されているのでその際古いポストは撤去されたのかもしれない。貯水池の周りには桜が一万本植えられており、春には素晴らしいだろう。半周して池の北側の⑥は首を傾げており、落ちるのも時間の問題。⑦へは途中で藪がきつくなったので⑧を経由して到達した。無理をすれば行けたかもしれないが、この方が数段楽だった。⑦は頭が落ちていたが、⑧はしっかりしている。長木川に沿って歩く⑨に到達する。これは頭が落ち、真っ白で記号不明。おそらくBかPだとは思いますが、⑩はすぐ横で工事をしていたが難在。街中なので傷みは激しいが、記号は分かる。ゴールは「鳳鳴高校」前。私は車でいったので、ここからまたスタートまで戻るのが面倒だった。結果として②⑤がなかったが、これだけ残っていれば大満足。欲を言えば、山道の良好なこと、桜の貯水池等PCの条件としては申し分ないので、再整備を是非してほしい。きっと人気が出るコースであろう。余談ではあるが、マップの北側に走る「小坂鉄道」はこの翌日の9月30日限りで旅客部門が廃止となった。この日の夕方No.8「鹿角・花輪」のスタート地点を訪れ、マップを入手したが、公民館の方の話によると、地形も変わり、ポストも壊れてしまっているのが廃止申請をしたそうである。無理してできないことはおそらくないであろうし、マスターもあったので近いうちに機会があれば回ってみたい。

(秋田県OL協会 ☎0188-63-9532)

□1994年9月30日(金)
秋田県 No.9 ~大高 94-31~
「角館白岩」

[距離] 10km
[ポスト数] 10本

田沢湖線「角館」駅より羽後交通バス「抱返入口」行きで「白岩支所前」下車。但し、便は悪く、私は車で行った。

バス停の並びに立派なマスター掲示板があり、マップは「白岩公民館(基幹集落センター)」で扱っている。ここが休み場合は近く「草薙紀雄さん宅」でも入手できるので安心。道案内もしっかり掲示されている。マップは開設当初のものと変わらないが、⑥が変更され、ポストも実にユニークで画期的なスタイルをしたものに立て替えられている。頭は三角形をしていないが、工夫の凝らされたポストなので是非現地を訪れて見て頂きたい。山裾と田園地帯を巡る平坦で易しいコースで道も良好。②~③にかけて広域農道建設のため若干分岐がずらくなっているので、地図をしっかり読むこと。⑤の往復も問題なし。台風真っ只中の荒れ狂う天候のなかを強行したが、整備状況が完璧であったので、気分良く回れた。

(草薙 紀雄宅 ☎0187-55-2803)

□1994年10月1日(土)
宮城県 No.1 ~大高 94-32~
「泉が岳」

[距離] 9km
[ポスト数] 10本 PC・O-MAP

地下鉄「八乙女」駅より仙台市営バス「泉が岳青年の家」行きで終点下車。青年の家がスタート地点でマップとマスターがある。但し、このマスターの③⑤は若干ずれており、⑨は全く違う場所に記されているので要注意。外の案内板のマスターは判読不能。標高1,172mの泉が岳の中腹のよく整備された遊歩道を通る山岳コース。⑨以外は古いポスト今尚使用されているが、良く管理されている。終始爽快な気分で行ける推薦ベストコース。難しい所はなく、2時間で終了した。

(泉が岳青年の家 ☎022-379-2311)

□1994年11月3日(祝)
兵庫県 No.19 ~大高 94-33~
「六甲山」

[距離] 6km
[ポスト数] 7本 PC・O-MAP

阪急神戸本線「六甲」駅または東海道本線「六甲道」駅より阪急バス「六甲ケーブル下」行きで終点下車。ケーブルで六甲山上まで行き、更に六甲有馬ロープウェイで「六甲山頂カントリー」駅下車。ロープウェイの中にもPCの広告があった。駅前がスタート地点でマップは駅にある。立て札タイプの案内板に印刷されたマスターは明瞭。遊園地やゴルフ場といった娯楽施設の間を縫って歩く賑

やかなコース。②は今年7月21日にオープンしたばかりの「ホール・オブ・ホールズ 六甲」というオルゴール館の駐車場になってしまったため撤去されている。県OL協会の話では、近々それほど離れてない位置に立て直すとのこと。オルゴール館では100年程前の貴重なオルゴールを30分間実演して聞かせてくれる。一時OLを忘れて立ち寄ってみるのも一興。後半は「六甲ゴルフ場」沿いに歩くが、南西側に見渡せる海の景色は素晴らしく、⑤付近は特に良い。管理の行き届いた好コース。初心者や親子連れにはうってつけである。

(兵庫県OL協会 ☎078-361-8086)

□1994年11月19日(土)
山形県 No.8 ~大高 94-34~
「東沢公園」

[距離] 10km
[ポスト数] 10本

奥羽本線「橋岡」駅下車。駅前通りを西に真直ぐ15分歩くとスタート地点の「村山市民会館」がある。事務室にマップがあり、外のマスターも最近入れ替えたのか到着して鮮明。案内板も奇麗に塗装されていて新設コースのよう。マップはO-MAPの装丁をしているが、それ自体は2色の複製版。それでもコースを回る上では全く支障はない。当コースは随分前から閉鎖されていると聞かされていたが、数年前に再整備されたようでポストも新しく、10本ともしっかりと立っている。コースは山を3度登り降りする健脚向き。先ず1度目は③の「小松沢観音」。石段を登っていくと仁王門に掲げられている大草鞋が出迎えてくれる。2度目は⑤~⑥の「虚空蔵山」で360mまできつい急坂を登る。但し、この区間は一旦「バラ園」方面へ下ってから再度⑥へ登るルートもある。前者のルートを私は選んだが、登りがきつかった分、その後の尾根筋の道は快適で、眼下に見下ろす村山盆地は素晴らしい。3度目はやや低めだが⑧の「楯岡城跡」。山道はいずれも整備状況抜群で快適。見どころも多く、PCのモデルコース。私の推薦ベストコースである。降雪期を除けば通年利用できる。

(村山市教育委員会 ☎0237-55-2111)

休ヶ：
〒344 埼玉県春日部市武里町地5-23-503
大高 竜亮



□1994年11月19日(土)
茨城県 ~木佐木 94-8 ~
「空空間」(さしる)」

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本中6本現存
PC-O-MAP

JR水戸線「空間」駅下車。駅より北へ16分余り歩くと「市民体育館」があり、マップとマスターマップはそこにある。「市民体育館」の休館日は土曜の午後・日曜・5日・20日である。マップにはポスト位置が直径1mmの黒丸と、直径5mmの赤丸で示されているが、Noは記入していない。マスターにはNoが記入してあるので、Noのみ転記すればよい。係の方から「①②③④のポストはありません」と宣言される。どこのコースでもマップを手にした時は、「よーし、やるぞ」というファイトがわきあがるものだが、ポストが4本も無いことを聞かされて、完全に意気が消滅してしまった。「市民体育館」から東へ15分余り歩くと「(旧)保養センター」がある。「市民体育館」の隣に「中央公民館」があり、そこに空間市の観光地図があるので、1枚もらっておくと「(旧)保養センター」まで行くのに便利である。途中に有名な「空間稲荷」があるので、コースの安全を祈願しておこう。「(旧)保養センター」に着くと、門の前にマスターの掲示板があった。中のマスターは赤丸まで鮮明であるがNoは無い。マップの△印はこの掲示板の位置である。マップは1:15000で1980年の調査。信頼度は①②③のあたりは40%以下。その他もやたらと舗装道路が多く、現状とマップが一致しない。O-MAPとしての面目を残しているのは僅かに⑦~⑨のみである。①②③が無いので、スタート④と歩けばよかったのだが、自分の目で確認しなければ納得できないので、①②③の痕跡を見て回ることにした。残存ポスト6本中「これがポストだ」と言えるものは、④と⑧の2本のみである。④だけは何故か最近塗り直したらしく、真っ赤と白のコントラストが奇妙にさえ見えた。⑧は錆が相当進んでいるが、どうにか赤色が残っている。他の4本は白色化(白骨化?)して、晩秋の風の中に空虚な姿をさらしていた。これではポストがかわいそう。ポストを全部塗り直すことが不可能ならば、思いきって全部撤収してやる方がポストの供養になる。①と③は破線の小道を舗装道路に拡幅する際に捨てられたような状況。②は巨大駐車場(1000台)の中に取り込まれて捨てられたような状況。②~③の周辺は巨大公園を造成開発するために、山を削り広大な田畑を埋めて、地形や道が一変してもとの姿を留めていない。⑤の付近にも舗装道路が出現して⑥へのル

ートに悩まされる。コースは山30%、岡の麓20%、舗装道路50%で標高差は100mぐらい。

このコースは昭和52年に歩いたので、17年ぶりの再会であったが、あまりの変貌ぶりに愕然としてしまった。当時は1:25000の古典マップながら、迷うこともなく3時間20分で歩いている。今回は1:15000にもかわらず3時間40分かかった。それほど①②③のあたりはマップが役に立たないということ。ポスト位置も記号も17年昔のままであった。このコースの名誉のためにも「休止」か「廃止」にしてやる方がよいと思う。
(空間市民体育館 ☎0296-72-2101)

□1994年11月25日(金)
岐阜県 ~木佐木 94-9 ~
「瑞浪化石」

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本 PC-O-MAP

JR中央本線「瑞浪(みづな)」駅下車。駅より徒歩40分(タクシーは930円)の市民体育館=休館日は火曜日=にマップとマスターがある。マスターの掲示板は駐車場の入口にあり、掲示板も中のマップも新鮮そのもの。マスター掲示板の優等生である。このコースは旧姓「瑞浪古城」と呼ばれていたが約2年間休止となり、本年10月10日に新コースのオープン記念大会を開催と同時に、新生PC「瑞浪化石」として発足した。私は旧コースを歩いていないが、富田氏より頂いた旧コースのコピーと比較すると別の場所になっている。新コースは10kmと5kmと3kmの3コースが設定されているが、ポストは全て共有である。そのせいか、ポストNoは記入されていない。私は右回りに歩いたが、反省としては、左回りの方が良いと思う。その理由は、右回りにすると後半は全て山の中となり、晩秋の早い夕暮れの中では不安と危険を伴う。左回りにすれば、後半は舗装道路と一つの小さな岡ですむ。

「瑞浪化石」の名称のとおり、コースの途中には「化石博物館」があり、中央自動車道をくぐって市民体育館に行く途中の道のすぐ横の土壁には、貝の化石が露出して自然のままで見学できる場所もある。コースは、山45%、岡20%、舗装道路35%で、標高差は80mぐらい。新コースなので、よく整備されていて藪こぎのような所はない。ポストは、もちろん新品で、到達した時の気分は爽快そのもの。マップは1:15000のPC用O-MAPで、精度は100%に近い。マスターのO印が少しずれているポストがあるが、アタックにはさして支障はない。コースの中段は車の排気ガスで閉口したが、後半(回り方は前半)は落ち葉を

踏む音だけの静かな小春日和の一日であった。推薦できるコース、総合点91点。

□1994年11月26日(土)
岐阜県 No15 ~木佐木 94-10 ~
「根の上高原」

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本 PC-O-MAP
(来春より O-MAP)

JR中央本線「恵那」駅または「中津川」駅下車。「恵那」駅から夏季(7月21日~8月31日)のみバスがある。その期間以外はタクシー(3730円)か健脚に頼る。「根の上湖」畔には「根の上山荘」「キャンプセンター」「レストラン」「マスターマップ掲示板」がある。一覧表では、マップは「根の上山荘」にあることになっているが、12月~3月は閉鎖、4月~11月は土・日・祝日のみ開店。マスター掲示板は根の上山荘の下(レストランの前)にあり、中のマップは実に鮮明。マップは1:10000で、旧コースのポスト数は12本だが、掲示板のマスターのポストは10本に変更されている。従ってポスト位置も変わっているが、後半の5本は元の位置。コースは山70%、その他30%で標高差は80mぐらい。きつい登りは「保古山」のみ。「根の上湖」と「保古の湖」を一周する高原コース。ポストは10本とも新品で、途中に旧コースの色褪せたポストが1本淋しく残っていた。小径で消滅した所もあるが、直進するのにさして困難はない。難解ポストは②と⑨であろう。10本とも路傍に立っているより、この程度のポストがあった方が興味が湧く。②は根の上湖の西岸だが、道からは全く見えない。⑨はコンパワークが要求される。⑨の北にユースホステルがあるので、「まさか?」と思ったが、立ち寄って「PCのマップはありませんか」ときくと、主人が9月に行われた大会用のマップを持ち出して「来年の4月頃からマスターはこれに取り替え、マップもここ(YH)とレストラン(掲示板の前)などに置くようになります」とのこと。明春3月頃までキャンプセンターは休業、根の上山荘は閉鎖になるので、マップの販売は事実上「YH保古の湖」へ移動したことになる。新マップは大会用なので通行可能度まで明記され、1:15000となる。1994年1月号のO-JAPANに大高氏のレポート(旧コース=ポスト数12本)があるので参照されたい。

このコース、推薦できるがアクセスに難点あり。

(ユースホステル保古の湖 ☎0573-65-3534)

リポーター：
〒185 東京都国分寺市泉町 3-5-6-104
木佐木 輝雄

■中九四連絡会 ご案内

1. 日時: 1995年3月26日(日)
13:30 ~ 14:00
2. 場所: 第21回全日本大会会場 速報付近
3. 対象: "中国・四国・九州" 県内のオリエンテーリング組織(クラブおよび県協会・県委員会)の各代表者および有志個人
4. 会費: 無料(ただし次年度中九四ランキン参加希望クラブ代表者は、ランキン参加料 600円を持参してください。)
5. 協議題: 4月以降の向こう1年間の"圏内オリエンテーリングの公開行事予定"の調整・提案&ランキン対象大会の決定等。

□

*当日の出席者に資料として、まとめて大会日程等を配布したいと思いますので、行事予定・提案等は、あらかじめ3月17日(金)までに尾川幹事にご連絡ください。

□

〒739-15

広島市安佐北区白木町三田8683-5

尾川 正洋

☎ 082-829-1264

(広島OLC)

=ランキン集計&広報幹事=

植林参加者募集のお知らせ

農林漁業金融公庫東京支店業務第三課 石田 桂子(札幌農学校OLC)

オリエンテーリングという競技に山林は不可欠なものです。その山林は林業者の私有財産であって、林業経営の場であるということ、私たちは忘れがちなのではないでしょうか。

その林業は今経営環境が非常に悪く、投資採算性の低さから、伐採跡地への新たな植林が行われないうまま放置されている場所があります。山林なくしては成り立たない競技を楽しんでいる者として、少しでも林業の役に立つことができたらと思い、政府系金融機関で林業融資の業務についていますが、最近になって林業ボランティア組織の方にもスタッフとして加わるようになりました。そこで、ちょうど人数を必要とする話がありましたので、是非オリエンティアの皆さんに参加していただきたく、お知らせします。

○主催 創夢舎[都会の人間の手で山を生き返らすのが目標。林学科の学生が多い]

○期日 4月2日(日) 雨天決行

○集合時間 9:30

(立川発 8:19 → 軍畑着 9:07)

○集合場所 青梅線「軍畑」駅から徒歩5分
・駅を降りて青梅方面に進み踏切を渡り坂を下る。車道に出たらそのまま進み 20m先の道路が広がったところ。車の場合は青梅街道「軍畑駅入口」信号を曲がってください。なお、テープ誘導はありません。

○服装装備 汚れてもよい服装、運動靴、軍手着替え、移植ごて(=ショベル)お弁当、水筒、保険証

○参加費 1000円

○募集人数 20人(今回だけでなく、後の下刈り等の作業に参加できる方)

○申込方法 ・住所、氏名、電話番号、年齢、性別、所属クラブを記入した紙
・宛名を明記した返信用封筒
・参加費相当の定額小為替

以上の3つを同封して下記へ送って下さい。

〒100 東京都千代田区大手町一丁目8番2号

新公庫ビル1F

農林漁業金融公庫東京支店業務第三課

石田 桂子

○申込締切 平成7年3月17日(必着)

○注意事項 今回の作業は刃物を使わないので特に危険はありませんが、斜面は急峻です。ケガ等の責任は個人で負って下さい。

○問合せ先 TEL. 03-3270-9244 (内線 354)

FAX. 03-3270-9248

石田 桂子

(月~金 9:20~20:00)

ちなみに、植えるのは桜で、山主は銘酒・澤乃井の社長さんだそうです。将来、自分の植えた桜の木の下でお花見ができることでしょう。



■ご購入読登録 更新のお願い

1994年度も早くも3月、購読更新をお願いする時期となりました。すでに、全日本リレー大会、早大OC大会等で一部の方々には来年度の継続購読お申込みをいただいておりますが、他の大部分の方のために「払込取扱票」を本誌内に添付させていただきます。4月号の印刷発注部数を確定させるため、3月25日までに郵便局で手続きをお願いできれば幸いです。なお、3月27日の栃木県における全日本大会会場においても、右記の「震災義援金」とともに購読更新の受付をさせていただきますが、当日はかなりの混雑が予想されますので、なるべく郵便局での手続きをお願いいたします。やむを得ず大会会場でお申込みの場合は、本誌添付の「払込取扱票」を購読料(大部分の方は3600円)と共にご提出いただければ、簡便に済みますので、よろしくご協力ください。また、みなさま「購読期限」は毎月お送りする封筒の宛名ラベルの右下に、例えば 13-1234-9503 とあれば、1995年3月すなわち今月号までということですので、ご承知おきください。

[編集部]

◆連載の「リニア7のめ Medical Advice」『大会運営学』は、本号休載させていただきます。

■阪神大震災

義援募金 継続中

本誌 95/1月号にお呼びかけをして以来、多数の方々から暖かいご芳志を賜っております。ありがとうございます。

募金は本月末までお受けいたしますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。詳しくは

1・2月号をご参照ください。なお、左記の本誌ご購入更新のための郵便局払込取扱票をご使用いただいても結構です。その際は通信欄余白に「兵庫県南部地震義援金〇〇〇円」とお書き添えいただければ幸いです。

また、経過の詳細ご報告は次号にてさせていただきます。 [編集]

< 編集部より >

◆先月この欄でお約束した「3月10日発送」が上記の「植林」が行われる青梅市に近い地域だけでも間に合いそうです。2月号印刷発注後、石田さんから電話をいただき、「何とか2月号に…」と懇願された関係上、掲載が遅れた編集部の責任もあり、購読者のみなさんには是非この催しに関心を示していただき、ご参加されまようようお願い申し上げます。◆一方、スキー0に関しては、武石さんの講習会資料はいろいろご用意されているようですので、当方は一般的なことを1~2ページ書いてみました。◆さてまた予告的なことを書いて、自らを苦しめよう

とするわけではありません(このところ新規や継続購読の積極的なお申込みが多く、編集者は少しノッていますので)、来月から、中高年齢者や中年婦人のためのオリエンテーリング入門講座のような感じで、拙稿を連載してみたいと考えています。◆購読更新、3月号の発送、青色申告、勤務先のこと、区のこと、自治会のこと、わが家の法事、そして私の通院など、3月前半に全部重なっています。明日(3月6日)は、学連・松岡氏の紹介で共同通信の方の取材を受けます。また「自治会」は、来年度「副会長」を仰せつかりました。

流人(ROUTE)

O-JAPAN 発行人/田口 昭子

〒234 横浜市港南区日野南7-9-5

TEL. 045-891-7004 FAX. 045-891-2500

分室=Annex TEL. 0287-77-1977

NIFTY-Serve ID VYE01053

郵便振替口座(番号) 00270-9-46870 (加入者名) O-JAPAN 編集部

購読料

: '95.4月~'96.3月

: 編集責任者/田口 肇

: Chief Editor: Hajime Taguchi

: (高校生以下) 来年度1年分

¥3,600

: Editorial Address:

: 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku

: Yokohama, 233 Japan